

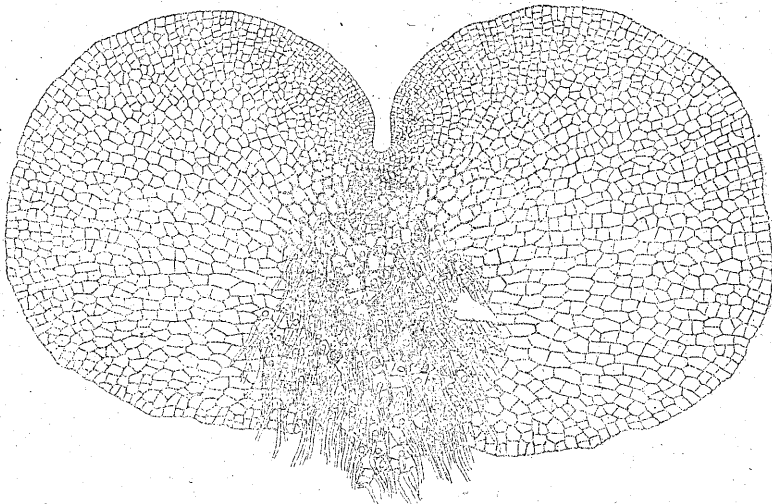
百瀬 静 男* ウラボシ科羊歯の前葉體の

分類學的研究 (第六報)

Shizuo MOMOSE: A Systematic Study on the Prothallium of
Polypodiaceous Ferns (VI).

22. ギノモトサウ *Pteris multifida* Poiret. 本種は本州中南部、四國、九州、琉球、朝鮮、支那に互つて分布する。本研究の材料は東京産のものを使用した。

前葉體は横廣き心臟形にして、頂部中央は丸く稍々淺く彎入し、兩翼片の内側邊は生長點の上方に於て平行である。下部は丸く狹窄して原絲體に移行し、底は鈍圓形乃至腎形をなす。原絲體は2-3個の細胞により成り、基原細胞は圓柱狀に孢子外殻より突出し、初生假根はその下側方に着生する。兩翼は微かに蝶翼狀に斜上するか或は殆んど平直に擴がり、翼緣は殆んど全緣である。翼細胞は不規則なる等方多角形にして、分裂列は稍々明瞭である。翼緣の細胞は等方形にして多少長形になる傾向を有し、側方に突出し、その緣側は彎入して凹形をなす。假根は通常淡褐色をなし、中軸帶に沿うて中褥の中部或はそれ以上にまで互つて生じ、上方は藏卵器と混生する。中褥は下面中途より頂部生長點に達する廣倒卵形乃至は著しく斜上方に伸びて、殆んど腎臟形の褥をなし、5-6

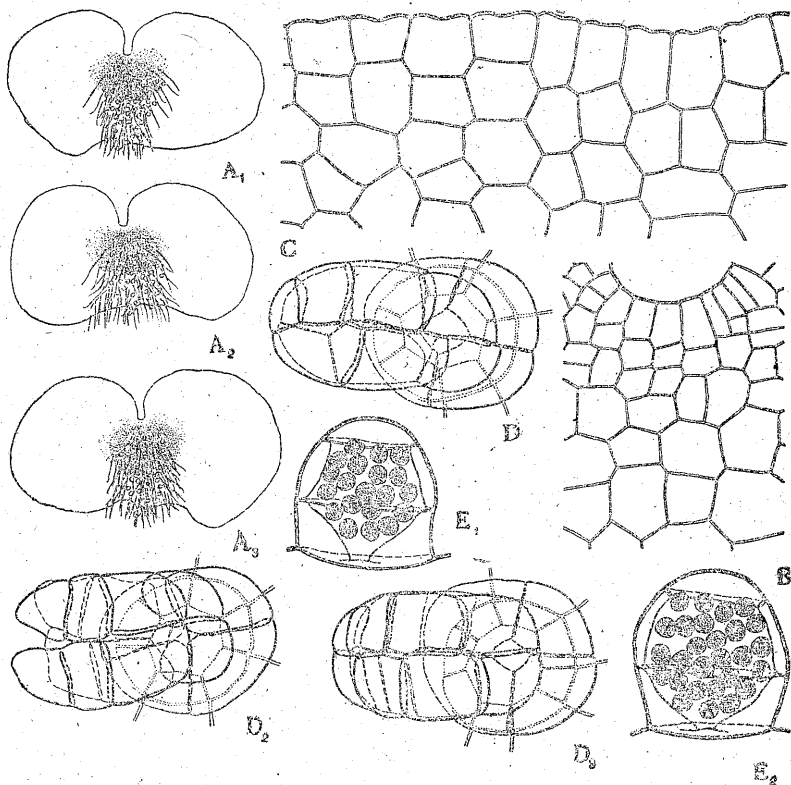


第 38 圖 ギノモトサウの前葉體 Prothallium of *Pteris multifida*

* 文部省科學教育局

層の丸味ある等方形の細胞より成る。藏卵器は中帯の中央上部生長點に近く群生し、4 系列をなす頸細胞は前列 5 個稀に 4 個、後列 4 個稀に 3 個の細胞より成り、その最下位のものは特に大形にして頸部の座をなす。藏精器は中軸帯に沿うて中部或は時に中部以上にまで互つて生じて上方に於ては藏卵器群に接し又はこれと混生し、球形乃至橢圓形にして、直徑 $70-100\mu$ あり、底細胞は環細胞と等幅等高にして、その上膜は常に摺鉢狀に陥没して底膜にまで達する。

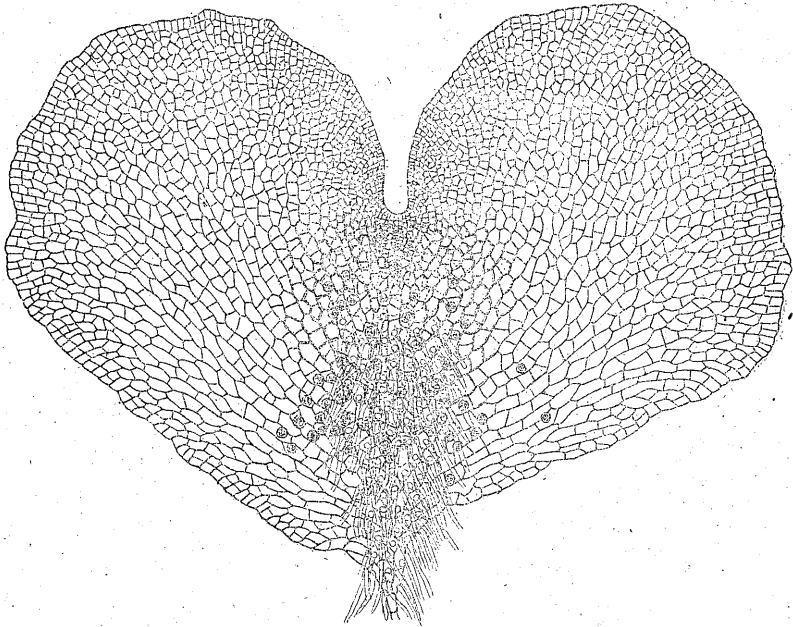
本種の前葉體は前記モエジマシダ *P. longifolia* の前葉體と比較するに 1) 頂部中央は比較的淺く彎入し、兩翼片の内側邊は生長點の上方に於て通常平行である。2) 兩翼は殆んど平直に擴るか或は極めて微かに蝶翼狀をなすに過ぎず又翼縁は殆んど全縁である。



第 39 圖 キノモトサウ *P. multifida*

A, general aspect ($\times 6$), B, growing point ($\times 145$), C, a part of margin ($\times 145$), D archegonia ($\times 220$), E. antheridia ($\times 220$).

る。3) 翼細胞及び翼縁の細胞は通常等方形にして長形になる傾向が弱い。4) 中褥は比較的上方より始まり、横廣くなる傾向が強い。5) 藏精器は中褥の中部或はそれ以上にまで互つて生じ、藏卵器群と接し或は僅かにこれと混生するに過ぎること等の諸點によつて明瞭に區別される。

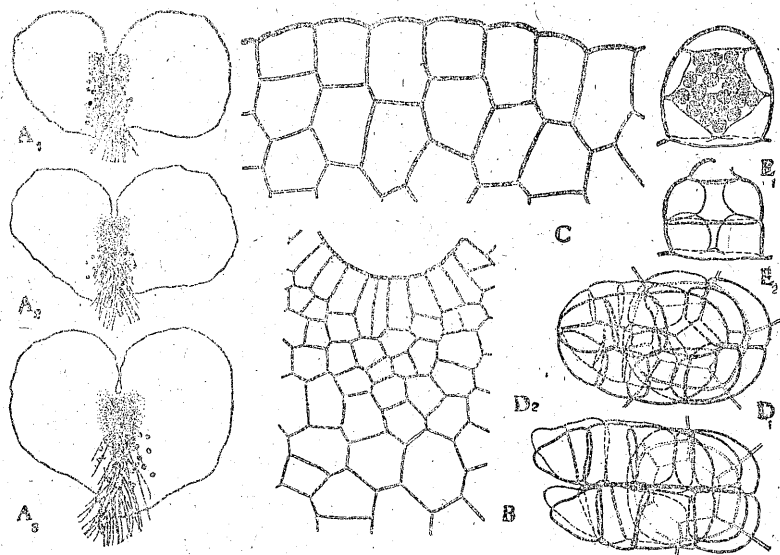


第 40 圖 リウキウキノモトサウの前葉體 Prothallium of *Pteris ryukyuensis* (×20)

23. リウキウキノモトサウ *Pteris ryukyuensis* Tagawa 本種は琉球特産の羊歯である。材料は琉球原産にして現在小石川植物園に栽培せるものを使用した。

前葉體は心臟形にして時に横廣くなり、頂部中央は丸く深く彎入し、兩翼片の内側邊は生長點の上方に於て平行なるか或は開くも時には相接近することがある。下部は丸く或は稍々楔形に狹窄して原絲體に移行する。原絲體は 3-4 個の細胞より成り、基原細胞は圓柱狀に孢子外殻より突出し、初生假根はその下側方に着生する。兩翼は微かに蝶翼狀に斜上し、翼縁は不整波狀をなす。翼細胞は等方形にして内部下方に於ては長形になり、分裂列は稍々明瞭である。翼縁の細胞は等方形又は稍々長形にして、側方に突出しその縁側は彎出して凸形をなすか又は極めて微かに彎入して凹形をなす。假根は通常淡褐色を呈し、中軸帶に沿うて中褥の中部にまで互つて生ずる。中褥は下面中途より頂部生長點に達する倒卵形乃至狹倒卵形の褥をなし、比較的小形にして、4-5 層の丸味ある

等方形の細胞より成る。藏卵器は中褥の中央上部生長點に近く少數個群生し、4 系列をなす頸細胞は前列 5 個、後列 4 個の細胞より成り、その最下位のものは通常大形にして頸部の座をなす。藏精器は下面下部より中軸帶に沿うて中褥の中部以上にまで互つて生じて上方は藏卵器群に接するか或はこれと混生し、球形乃至稍々橢圓形にして、直徑 60-85 μ あり、底細胞と等幅・等高にして、その上膜は常に陥没して底膜にまで達する。



第 41 圖 リウキュウキノモトサウ *P. ryukyuensis*

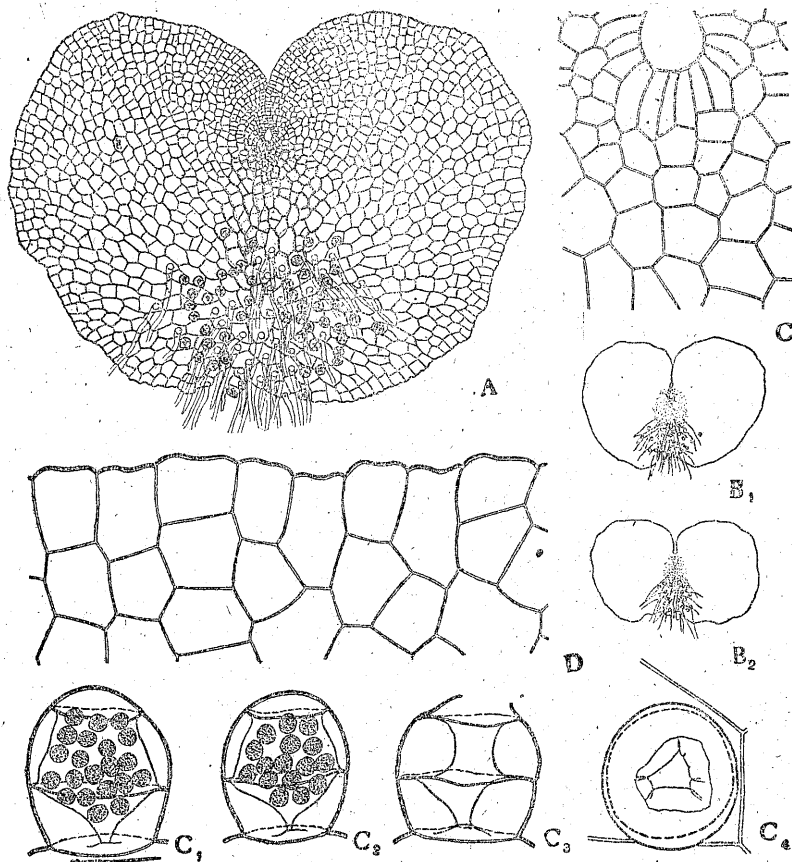
A. general aspect ($\times 6$), B. growing point ($\times 145$), C. a part of margin ($\times 145$), D. archegonia ($\times 220$), E. antheridia ($\times 220$).

本種の前葉體は前記キノモトサウ *P. multifida* の前葉體に類似してゐるが 1) 頂部中央は比較的深く彎入する。2) 翼縁の細胞の縁側は通常彎出して凸形をなし時に彎入することあるも極めて微かである。3) 中褥は倒卵形乃至狭倒卵形にして比較的小形である等の諸點によつて區別される。

24. オホバシノモトサウ *Pteris cretica* Linnaeus 本種は本州中南部・四國・九州・琉球・臺灣・朝鮮南部・支那に互つて分布する。本研究の材料は相模國神武寺産のものを使用した。

前葉體は丸味ある心臟形にして、頂部中央は丸く淺く或は稍々深く彎入し、兩翼片の内側邊は通常相接近する。下部は丸く狹窄して原絲體に移行する。原絲體は 2-3 個の細胞より成り、基原細胞は圓柱狀に孢子外殼より突出し、初生假根はその下側方に着生する。兩翼は蝶翼狀に斜上し、翼縁は微かに波狀をなす。翼細胞は長方形にして、分裂列は

稍々明瞭である。翼縁の細胞は等方形にして長形になる傾向を有し、側方に突出し、その縁側は彎入して凹形をなす。假根は無色透明にして時に淡褐色を呈し、中軸帯に沿つて中褶の下部にまで互つて生ずる。中褶は下面比較的上方より始まり生長點に達する倒卵形の褶をなし、比較的小形にして、3-4層の丸味ある等方形の細胞より成る。藏卵器を生ぜずして常に無配的に造胞體を生ずる。藏精器は下面底部より中褶の下部にまで互



第 42 圖 オホバキノモトサウ *P. cretica*

A. prothallium (×18), B. general aspect (×6). C. growing point (×145), D. a part of margin (×145), C₁-C₄ antheridia (×220).

つて生じ、球形乃至橢圓形にして直径 65-85 μ あり、底細胞は環細胞と等幅・等高にしてその上膜は常に陥没して底膜にまで達する。

本種の前葉體は常に無配生殖を行ふためそれに伴ふ標徴の不完全により充分なる比較は不可能であるがその総合的特徴によりキノモトサウ *P. multifida*, リウキウキノモトサウ *P. ryukyuensis* と同一型として取扱ふべきであると思はれる。